主専攻実習 (定理証明班)

第五回課題レポート

担当:森継 修一

知識情報システム主専攻 201611502 久保川一良 2018 年 11 月 12 日

◇接続環境

```
自分のローカル環境に Reduce をインストールして利用した。
       ◆ 使用した PC のスペックについて: https://bit.ly/2Cg7hqb
      OS や Reduce のオプション設定などについては以下の通りである。
     username@my_computer:~ [HH:MM:SS]
      $ lsb_release -a
     No LSB modules are available.
     Đistributor IĐ: Ubuntu
     Description: Ubuntu 16.04.5 LTS
                   16.04
     Release:
     Codename:
                   xenial
     username@my_computer:~ [HH:MM:SS]
      $ reduce
                                   # alias reduce='redcsl -v -w -k 4000 --nogui'
     Codemist Standard Lisp revision 4765 for linux-gnu:x86_64: Sep 19 2018
     Created: Wed Sep 19 15:57:15 2018
     Reduce (Free CSL version, revision 4765), 19-Sep-18 ...
     Memory allocation: 4168 Mbytes
     There are 8 processors available
◇入力ファイル
         % 〈三角形の内心の証明〉
% A(0, 0) B(u1, 0) C(u2, u3) の三点による三角形 ABC を考える
% 内心を作図から求める手順に沿って証明してみる
```

% -----;

```
% 直線 BC 上に、BA=BF となる点 F をとる ------;
% FA の中点を G とすると、△BFA は二等辺三角形だから、BG⊥FA となる ------;
% F は BC 上にあるのだから、共線となっている( B-F-C と考える )------;
% また、G は FA 上にあり、共線となっている( F-G-A と考える )------;
% F(x3, u6) G(x4, u7)
h7:=requal(u1, 0, 0, 0, u1, 0, x3, u6);
h8:=midpoint(1, x3, u6, x4, u7, 0, 0);
h9:=midpoint(2, x3, u6, x4, u7, 0, 0);
h10:=vertically(u1, 0, x4, u7, x3, u6, 0, 0);
h11:=collinear(u1, 0, x3, u6, u2, u3);
h12:=collinear(x3, u6, x4, u7, 0, 0);
% 点 I は AE 上にあり、かつ BG 上にある(AE と BG の交点である)------;
% つまり、共線となっている( A-I-E , B-I-G と考える)
% I(x6, u8)
h13:=collinear(0, 0, x6, u8, x3, u6);
h14:=collinear(u1, 0, x6, u8, x4, u7);
% 二角の二等分線が交わる点 I は CH 上にあり、共線となっている ( C-I-H と考える ) ------;
i_conclusion:=collinear(u2, u3, x6, u8, x5, 0);
showtime;
% Groebner Basis: 結果が1となったら、仮定が誤っている可能性が高い -----;
%%% 変数を定義し、lex 形式で並べる ------;
torder({x7, x6, x5, x4, x3, x2, x1}, lex)$
%%% 仮定において定義した式から Groebner Basis を求める ------;
gb:=groebner{h1, h2, h3, h4, h5, h6, h7, h8, h9, h10, h11, h12, h13, h14};
、「glterms」が出力するのは、グレブナー基底の計算過程で〈ゼロにはならない〉

と仮定された式のリストである。
        -----:
%%% u に関する制約条件 ------;
glterms;
%%% gb を法としてg を簡約 -----;
preduce(i_conclusion, gb);
% ==> 0 になっていれば、定理は成立 ------;
% first(list), second(list)はそれぞれリスト内の1つ目、2つ目の要素を返す
% solve(f, v) は, 関数 f の変数を v の方程式としてみて解く
% X 座標も求めてみる ------;
%solve(first(gb), x8);
%solve(second(gb), x7);
showtime;
;end;
```

◇出力ファイル

```
〈三角形の内心の証明〉
% A(0, 0) B(u1, 0) C(u2, u3) の三点による三角形 ABC を考える
% 内心を作図から求める手順に沿って証明してみる
。
《 <証明 > ------::
order x7, x6, x5,x4, x3, x2, x1, u8, u7, u6, u5, u4, u3, u2, u1;
factor x7, x6, x5, x4, x3, x2, x1;
% 関数定義読み込み(※ローカル環境へコピーしてきたもの) ------;
in cal_sys_relations$
% 直線 CA 上に、AB=AD となる点 D をとる ------;
% 目線 CA 上に、AB=AD とはる点 D をとる ------;

% BD の中点を E とすると、△ABD は二等辺三角形だから、AE L BD となる ------;

% D は CA 上にあるのだから、共線となっている( C-D-A と考える ) ------;

% D ( 1 ) → D ( 1 ) → D ( 1 ) → D ( 2 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → D ( 3 ) → 
% Đ(x1, u4) E(x2, u5)
h1:=requal(0, 0, u1, 0, 0, 0, x1, u4);
h1 := -x1 - u4 + u1
h2:=midpoint(1, u1, 0, x2, u5, x1, u4);
h2 := 2*x2 - x1 - u1
h3:=midpoint(2, u1, 0, x2, u5, x1, u4);
h3 := 2*u5 - u4
h4:=vertically(0, 0, x2, u5, u1, 0, x1, u4);
h4 := x2*x1 - x2*u1 + u5*u4
h5:=collinear(u2, u3, x1, u4, 0, 0);
h5 := -x1*u3 + u4*u2
h6:=collinear(u1, 0, x2, u5, x1, u4);
h6 := x2*u4 - x1*u5 + u5*u1 - u4*u1
® 直線 BC 上に、BA=BF となる点 F をとる ------;
% FA の中点を G とすると、△BFA は二等辺三角形だから、BG⊥FA となる ------;
% F は BC 上にあるのだから、共線となっている( B-F-C と考える ) -------;
% F は FA L にあるのだから、共線となっている( F-G-A と考える ) ------;
% F(x3, u6) G(x4, u7)
h7:=requal(u1, 0, 0, 0, u1, 0, x3, u6);
```

```
2 h7 := - x3 + 2*x3*u1 - u6
h8:=midpoint(1, x3, u6, x4, u7, 0, 0);
h8 := 2*x4 - x3
h9:=midpoint(2, x3, u6, x4, u7, 0, 0);
h9 := 2*u7 - u6
h10:=vertically(u1, 0, x4, u7, x3, u6, 0, 0);
h10 := - x4*x3 + x3*u1 - u7*u6
h11:=collinear(u1, 0, x3, u6, u2, u3);
h11 := x3*u3 - u6*u2 + u6*u1 - u3*u1
h12:=collinear(x3, u6, x4, u7, 0, 0);
h12 := - x4*u6 + x3*u7
% 点 I は AE 上にあり、かつ BG 上にある(AE と BG の交点である)------;
% つまり、共線となっている( A-I-E , B-I-G と考える)
% I(x6, u8)
h13:=collinear(0, 0, x6, u8, x3, u6);
h13 := x6*u6 - x3*u8
h14:=collinear(u1, 0, x6, u8, x4, u7);
h14 := x6*u7 - x4*u8 + u8*u1 - u7*u1
% 二角の二等分線が交わる点 I は CH 上にあり、共線となっている ( C-I-H と考える ) ------;
i_conclusion:=collinear(u2, u3, x6, u8, x5, 0);
i_{conclusion} := -x6*u3 + x5*( -u8 + u3) + u8*u2
showtime;
Time: 0 ms plus GC time: 20 ms
%-----;
% Groebner Basis: 結果が1となったら、仮定が誤っている可能性が高い ----´-----;
%%% 変数を定義し、lex 形式で並べる ------;
torder({x7, x6, x5, x4, x3, x2, x1}, lex)$
%%% 仮定において定義した式から Groebner Basis を求める -----;
gb:=groebner{h1, h2, h3, h4, h5, h6, h7, h8, h9, h10, h11, h12, h13, h14};
```

```
gb := \{1\}
 「glterms」が出力するのは、グレブナー基底の計算過程で〈ゼロにはならない〉
% と仮定された式のリストである。
%-----;
%%% u に関する制約条件 -----;
glterms;
\{ -2*u5 + u4,
u3,
u4,
 -2*u7 + u6
u6,
u7,
u2,
 - u6*u2 + u6*u1 + u3*u1
%%% gb を法として g を簡約 ------;
preduce(i_conclusion, gb);
0
% ==> 0 になっていれば、定理は成立 ------;
%-----:
% first(list), second(list)はそれぞれリスト内の1つ目、2つ目の要素を返す
% solve(f, v) は, 関数 f の変数を v の方程式としてみて解く
% X 座標も求めてみる ------;
%solve(first(gb), x8);
%solve(second(gb), x7);
showtime;
Time: 0 ms plus GC time: 9 ms
end;
◇入力ファイル
% [定理 13] -----;
% 〈メネラウス(Menelaus)の定理の証明〉
% 〈ARCの3辺BC, CA, AB またはその延長が頂点を通らない1直線と交わる点をそれぞれ% P, Q, R とする。 ※1直線 P-Q-R が x 軸と一致するように座標を取った% A(u1, u2) B(u3, u4) C(u5, u6)
% P(x1, 0) Q(x2, 0) R(x3, 0)
% -----;
```

```
order x3, x2, x1, u6, u5, u4, u3, u2, u1;
factor x3, x2, x1;
% 関数定義読み込み(※ローカル環境へコピーしてきたもの) -----------;
in cal_sys_relations$
%-----:
% 仮定 ------;
% P, Q, R は共線となっている ------;
h1:=collinear(x1, 0, x2, 0, x3, 0);
% 各頂点から PQR に下ろした垂線の足をそれぞれ Ð, E, F とする % Ð(u1, 0) E(u3, 0) F(u5, 0) % つまり、PQ\perpBE, QR\perpCF, RP\perpAÐ となる
h2:=vertically(x1, 0, x2, 0, u3, u4, u3, 0);
h3:=vertically(x2, 0, x3, 0, u5, u6, u5, 0);
h4:=vertically(x3, 0, x1, 0, u1, u2, u1, 0);
% A-B-P, B-Q-C, C-R-A はそれぞれ共線となっている ------;
h5:=collinear(u1, u2, u3, u4, x1, 0);
h6:=collinear(u3, u4, x2, 0, u5, u6);
h7:=collinear(u5, u6, x3, 0, u1, u2);
% (BP*CQ*AR)^2 = (PC*QA*RB)^2 が導ければよい
% ※各辺の長さは負の数を取りえないので,負の場合を考える必要はない
bp2:=(x1-u3)^2+(0-u4)^2;
cq2:=(x2-u5)^2+(0-u6)^2;
ar2:=(x3-u1)^2+(0-u2)^2;
pc2:=(u5-x1)^2+(u6-0)^2;
qa2:=(u1-x2)^2+(u2-0)^2;
rb2:=(u3-x3)^2+(u4-0)^2;
conclusion:=(bp2*cq2*ar2)-(pc2*qa2*rb2);
showtime;
% Groebner Basis: 結果が1となったら、仮定が誤っている可能性が高い ------;
%%% 変数を定義し、lex 形式で並べる ------::
torder({x3, x2, x1}, lex)$
%%% 仮定において定義した式から Groebner Basis を求める ------;
gb:=groebner{h1, h2, h3, h4, h5, h6, h7};
%「glterms」が出力するのは、グレブナー基底の計算過程で〈ゼロにはならない〉
%と仮定された式のリストである。
                         -----:
%%% u に関する制約条件 -----::
glterms;
%%% gb を法として g を簡約 ------;
preduce(conclusion, gb);
% ==> 0 になっていれば、定理は成立 -----;
showtime;
;end;
```

◇出力ファイル

```
% [定理 13] -----;
% 〈メネラウス(Menelaus)の定理の証明〉
% △ABC の 3 辺 BC, CA, AB またはその延長が頂点を通らない 1 直線と交わる点をそれぞれ % P, Q, R とする。 ※ 1 直線 P-Q-R が x 軸と一致するように座標を取った % A(u1, u2) B(u3, u4) C(u5, u6) % P(x1, 0) Q(x2, 0) R(x3, 0)
% -----;
% <証明> ------;
order x3, x2, x1, u6, u5, u4, u3, u2, u1;
factor x3, x2, x1;
% 関数定義読み込み(※ローカル環境へコピーしてきたもの) ------;
in cal_sys_relations$
% P, Q, Rは共線となっている ------;
h1:=collinear(x1, 0, x2, 0, x3, 0);
h1 := 0
% 各頂点から PQR に下ろした垂線の足をそれぞれ Ð, E, Fとする
% Đ(u1, 0) E(u3, 0) F(u5, 0)
% つまり、PQ⊥BE, QR⊥CF, RP⊥AÐとなる
h2:=vertically(x1, 0, x2, 0, u3, u4, u3, 0);
h2 := 0
h3:=vertically(x2, 0, x3, 0, u5, u6, u5, 0);
h3 := 0
h4:=vertically(x3, 0, x1, 0, u1, u2, u1, 0);
h4 := 0
% A-B-P, B-Q-C, C-R-A はそれぞれ共線となっている ------;
h5:=collinear(u1, u2, u3, u4, x1, 0);
h5 := x1*( - u4 + u2) + u4*u1 - u3*u2
h6:=collinear(u3, u4, x2, 0, u5, u6);
h6 := x2*(u6 - u4) - u6*u3 + u5*u4
h7:=collinear(u5, u6, x3, 0, u1, u2);
```

```
% (BP*CQ*AR)^2 = (PC*QA*RB)^2 が導ければよい
% ※各辺の長さは負の数を取りえないので,負の場合を考える必要はない
bp2:=(x1-u3)^2+(0-u4)^2;
bp2 := x1 - 2*x1*u3 + u4 + u3
cq2:=(x2-u5)^2+(0-u6)^2;
ar2:=(x3-u1)^2+(0-u2)^2;
2 2 2 2 ar2 := x3 - 2*x3*u1 + u2 + u1
pc2:=(u5-x1)^2+(u6-0)^2;
2 2 2 2 pc2 := x1 - 2*x1*u5 + u6 + u5
qa2:=(u1-x2)^2+(u2-0)^2;
rb2:=(u3-x3)^2+(u4-0)^2;
conclusion:=(bp2*cq2*ar2)-(pc2*qa2*rb2);
2 2 2 + x3 *x2*x1 *( - 2*u5 + 2*u1) + x3 *x2*x1*(4*u5*u3 - 4*u5*u1)
            2 2 2 2 2 2 2 2 2 4 x3 *x2*(2*u6 *u1 + 2*u5 *u1 - 2*u5*u4 - 2*u5*u3 )
            2 2 2 2 2 2
+ x3 *x1 *(u6 + u5 - u2 - u1)
            2 2 2 2 2 2 2 2 4 2*u5*u1 ) + x3 *(- 2*u6 *u3 - 2*u5 *u3 + 2*u5*u2 + 2*u5*u1 ) + x3 *(
              2 2 2 2 2 2 2 2 - u5 *u2 - u5 *u1 ) + x3*x2 *x1 *(2*u3 - 2*u1)
            + x3*x2 *x1*( - 4*u5*u3 + 4*u3*u1)
            2 2 2 2 2 2 2 4 4 2*45 *43 - 2*44 *41 - 2*43 *41)
```

showtime;

Time: 0 ms plus GC time: 20 ms

```
// -----;
% Groebner Basis: 結果が1となったら、仮定が誤っている可能性が高い ------:
%%% 変数を定義し、lex 形式で並べる ------;
torder({x3, x2, x1}, lex)$
%%% 仮定において定義した式から Groebner Basis を求める ------;
gb:=groebner{h1, h2, h3, h4, h5, h6, h7};
gb := \{(u2 - u6)*x3 + (u1*u6 - u2*u5),
```

```
(u2 - u4)*x1 + (u1*u4 - u2*u3)
```